

低頻度メガリスク型の沿岸域災害に対する多様な効用を持つ対策の評価に関する研究

(平成18～20年度 18年度予算額:10百万円)

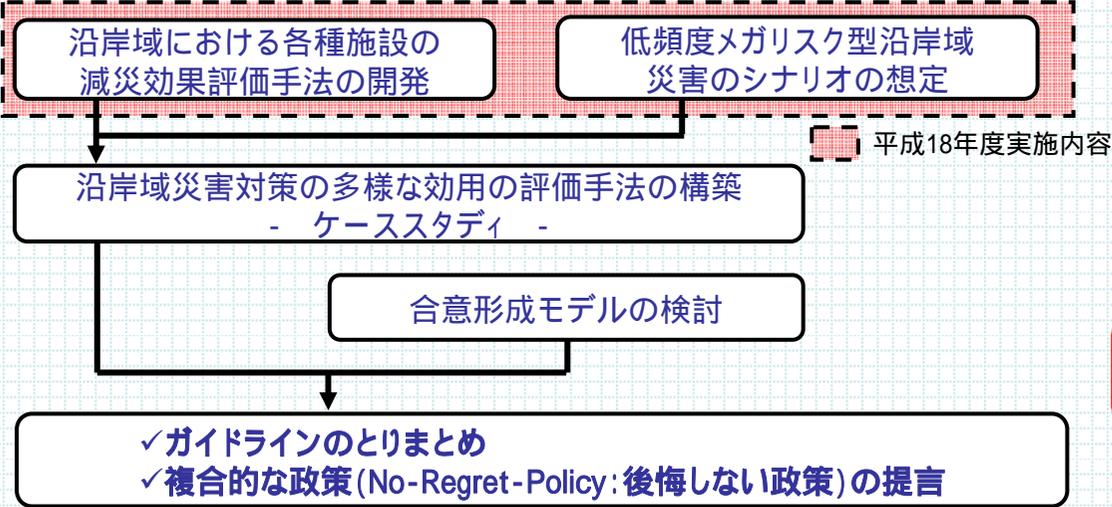
目的

発生頻度は低いが、ひとたび生起すると大きな被害をもたらす低頻度メガリスク型沿岸災害対策として、災害時に減災効果があり、非災害時(平常時)にも社会的効用がある対策を提案するとともに、こうした多様な効用を有する施策に関する評価手法及び地域住民等と行政との合意形成手法の構築を行う。

研究の背景

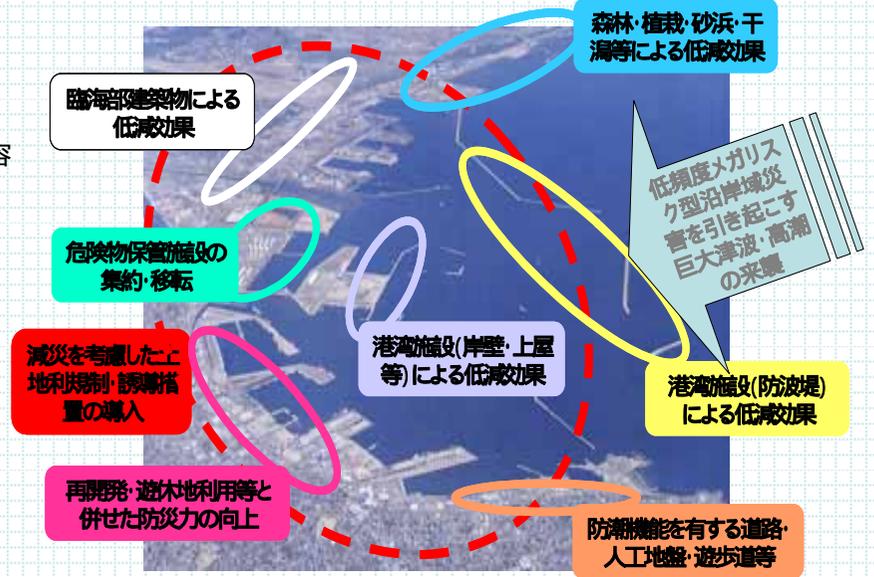
- 各地域で、工学的に想定されている外力を超える大きな自然災害が多発している。
- こうしためったに生じない自然災害に対して、厳しい予算制約の中、特に人的災害を最小化する現実的な防災・減災対策が急務。
- 安全・安心を求める国民の要請に応え、説明責任を果たすために、防災・減災対策に対する合意形成手法の確立が急務。

研究内容



No-Regret-Policy

現行の対策の防護水準を超える巨大災害が発生した際に「備えを怠っていた」と後悔しない政策
施設や装置の供用期間に災害が生起しなくても「無駄な投資をした」と後悔しない政策



成果の活用

防災・減災投資量に対する合理的評価手法の提案
 防災・減災投資に関するアカウンタビリティの向上
 円滑な事業実施による防災・減災効果の早期発現